

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ（ベラルーシ・ペンセンター会長）の声明

2020年9月9日

ベラルーシ・ペンセンターのホームページに掲載

(<https://pen-centre.by/2020/09/09/3779.html>)

私と考えをともにする友人は、「調整評議会」の幹部会にはもはや一人も残っていない。皆、獄中にあるか、国外に追い払われたかだ。今日は最後の一人、マクシム・ズナークが逮捕された。

最初に私たちの国が奪い取られた。いまは私たちの最良の人たちが奪い去られていく。しかし、無理やりもぎ取られた仲間の代わりに、別の何百人もの人たちが集まって来るだろう。立ち上がったのは「調整評議会」ではない。国が立ち上がったのだ。私はいつも言っていることを繰り返したい。私たちは政変を企てたのではない。自分たちの国の分裂を防ごうとしたのだ。社会で対話が始まることを望んだのだ。ルカシェンコは街頭の連中など相手にするつもりはない、と言う。しかし、その街頭の連中とは、日曜日ごとに、そして毎日街頭に出てくる何十万もの人々だ。これは街頭ではない。国民なのだ。

人々は小さな子供を連れて街頭に出てくる。自分たちが勝利することを信じているからだ。

さらに私は、ロシアのインテリゲンツィアに——古い習慣に従ってそう呼ぶことにしよう——呼びかけたい。どうしてあなたたちは黙っているのか？ 支援の声がめったに聞こえてこない。小さな、誇り高き国民が踏みにじられているのを目の当たりにして、どうして黙っているのか？ 私たちはいまでもあなたたちの兄弟なのに。

自分の国民にはこう言いたい。愛している。誇らしく思う、と。

いま、またもや正体不明の何者かがドアの呼び鈴を鳴らしている……。